

## 市民意見公募(パブリックコメント)結果

計画策定を進めるため、市民の皆さんから意見を募集しました。寄せられた意見は、下記の公表場所か市ホームページで閲覧できます。



### 取手市空家等対策計画 (案) 固 安全安心対策課☎内線 1182

この計画は、市民が安心・安全に暮らすことができる生活環境を確保し、空き家などの活用を促進することで、まちづくりの活性化を図るものです。

6人から7件の意見を頂きました。

公表場所 安全安心対策課、藤代総合窓口課、取手駅前窓口、各図書館、各公民館  
公表期間 3月31日(水)まで

### 取手市第6期障害福祉計画 (案) 固 障害福祉課☎内線 1334

この計画は、障害者総合支援法(略称)と国の示す基本指針に基づき、令和3～5年度までの3年間の障害福祉サービスなどの目標値や見込量を定めるものです。

3人から8件の意見を頂きました。

公表場所 障害福祉課、藤代総合窓口課、取手駅前窓口、各図書館、各公民館  
公表期間 4月15日(木)まで

### 第9期取手市高齢者福祉計画・第8期取手市介護保険事業計画(案)

固 高齢福祉課☎内線 1321

この計画は、令和3～5年度の高齢者福祉事業や介護保険事業の方向性を定めるものです。

寄せられた意見はありませんでした。

## さくら荘 桜ライトアップ

固 市観光協会(産業振興課内) ☎74-0217

約80本の桜がライトアップされます。幻想的な夜桜を楽しみませんか。

期間  
3月下旬～4月上旬の2週間程度  
18:00～21:00

※桜の開花時期に合わせて、日程が変更になる場合があります。

会場  
さくら荘(岡1025)



## 市民憲章「川柳」入賞作品が決定

固 市民協働課☎内線 1172

市制施行50周年を記念して、市民憲章の啓発と市の魅力にあらためて気付いてもらうため募集した取手市民憲章「川柳」の入賞作品が決定しました。たくさんの応募ありがとうございました。



### ■最優秀賞

「自転車も 連れて取手の 渡し舟」石塚流川さん(80歳代)

### ■市民憲章推進協議会長賞

大人の部「こりゃ読めん 小浮気小文間 小堀か 有為人さん(60歳代)  
子どもの部「ありがとう 産まれて良かった 取手の地」玉田悠我さん(中学2年生)

### ■市長賞

大人の部「起伏富む 坂が長寿を 生む取手」石塚流川さん(80歳代)  
子どもの部「光射す フジの花から 希望のせ」小泉りおさん(中学2年生)

### ■市議会議長賞

大人の部「今もなお 取二ブルーは 全国区」山羊球二郎さん(60歳代)  
子どもの部「利根川の 景色を連れて 常磐線」武市温人さん(中学2年生)

### ■特別賞

「シンボルだ ダイナミックな 壁アート」岩本愛珠さん(中学1年生)

※本人の希望によりニックネームで掲載している方がいます。

## ごみ分別収集カレンダー配布

固 環境対策課☎内線 1417

令和3年度ごみ分別収集カレンダーを市内各家庭に配布しています。配布終了予定は3月21日(日)です。3月22日(月)以降は下記に配置します。※令和4年1月4日(火)の収集が可燃ごみになります。詳細はカレンダーをご覧ください。



配置場所 市役所、各公民館、福祉会館、藤代総合窓口課、取手支所、取手駅前窓口、戸頭窓口、取手図書館、ふじしろ図書館、藤代スポーツセンター、保健センター

## 市長 Mayor's column コラム

### 市制施行50周年を祝う市民憲章「川柳」



取手市長

藤井信吾

市制施行50周年を記念して取手市民憲章「川柳」の募集を行いましたところ、500作品の応募があり、このほど最優秀作品をはじめ入賞作品が選定されました。

私も、応募作品全てに目を通してありますが、みずみずしい感覚で日常を捉え、17文字の中で思いを輝かせる技量に、すっかり魅せられてしまいました。

特に、子ども部門の応募作品においては、「自然を愛し、水と緑をまもり、やさしい環境をつくります」(市民憲章の第一目)を思い起こさせる、ふるさとの風景への誇りが堂々と表現されている作品が多く、明るさ、たくましさで明日の取手を見る思いがします。

さて、選考に当たっていただいた

市民活動団体「16 創年の会「川柳会」のメンバーの皆さま方には、たくさんの応募作品から入賞作品を絞り込む大変な気苦労をお掛けいたしました。

最優秀賞には、2月1日から18日まで実施した人気投票において第一位であった石塚流川さんの「自転車も連れて取手の 渡し舟」が選ばれました。皆さまに愛され、末永く口ずさんでもらえる優れた川柳だと思います。特に、この作品は、渡し舟という今日では極めて珍しくなった川辺の風景を映像のように実写しているところが、特長となっています。東京芸術大学の日比野克彦先生のダイナミックで斬新なデザインにより令和2年3月に就航した新型船(愛称: KAWASEMI)を広く市内外にPRする上でも、しっ

かり活躍してくれることと思います。

その他の作品も、それぞれに個性的で、魅力のあるものとなっています。「まちづくりはないものねだりではなく、あるもの探しだ」と言われることがありますが、今回応募のあった川柳は、見事に地域資源を探し出して宝物として一工夫がなされていると思います。

同時に、利根川の悠久の流れに象徴されるように、世代を超えて取手に生きる者として、先人の歩みに感謝しながら、私たちもバトンを受け継いでいこうという決意が伝わってくるようです。まさに、市制施行50周年を祝うにふさわしい手づくりの資産が生まれました。